

---

# 狼につき、危険

きまぐれ屋

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

狼につき、危険

### 【Nコード】

N9967C

### 【作者名】

きまぐれ屋

### 【あらすじ】

いつもの出来事だったはずなのに……。あたしは編集者、かれは作家

いつものことだった、  
今日までは。

「せ、んせい！」

新人であるわたしが受け持ったのは、  
やっぱり新人の作家さんで。

けどかれの本はバカ売れ。  
いきなり忙しくなったわたしは、いつもこの人の締め切りで苦労する。

「出来てますかっ！？」

ずかずかと踏み場のない、ボロアパートを余計に壊しながら進む。  
カップラーメンの、独特の匂いと、先生の生活臭。

「おう、中村いいところきたな」

「ほんとに?!」

かれは初めて会った日から、締め切りを守った日はない。  
そのため、わたしはいつも残業なのだ。

「コーヒー頼む」

「・・・は？」

無粋ひげを右手でいじりながら、にやける先生。  
一気に血の気が引いた

「もしかして・・・まだなの？」

「誰が終わったなんて言っただよ、休憩だよ、休憩」

信じられない！

「なんでいつもこうなの!？」

ずかずかと奥に踏み入れる度に、畳が軋む

ぶつくさ文句を言いながら、台所に立った時に、せんせいが背後で動いた気がした。

「お前を帰したくないから、って言ったら？」

耳元で囁かれた”オトコノヒト”の声に、震えた心臓が今にも血液を逆流させそうだ。

「せ、んせい」

肩にせんせいの重みを感じて、どうしようもなく体が熱を帯びた。

「・・・あ、の」

”喋んな”と、囁かれたのもつかの間

あたしのお喋りな口はせんせいのそれによって封じられた。

「・・・んっ！」

慣れない行為に、感触に息が詰まってしまふ。

いや、息がもたない

あたしの頭はただ酸素を欲しようと、必死にセンセイの腕にしがみついた。

「っはあ」

思わず口を抑えてしまいたいくらい、甘い声が出てしまう

恥ずかしい

今まで仕事上の関係だったから、尚更。

未だに震える唇に、顔を真っ赤にさせながらせんせいを見上げた。

「・・・本気で帰したくないかも」

酸素が回って冴えた頭なのに、

あたしの唇も体も再び熱を持ってしまった

「せんせい、ズルい、です・・・」

あたしはこれからこの人に振り回されるのだろう。

.

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n9967c/>

---

狼につき、危険

2010年10月10日01時31分発行